

# 日本技術士会「中国国際人材交流大会」参加報告書 深圳、北京、済南での大会参加、技術協議などの記録

報告書目次	
要旨	1
I. 訪問の目的	1
II. 参加者とその役割・分担	1
III. 訪問先	1
IV. 訪問日程	2
V. 深圳市での訪問先とその概要	4
1. 深圳市の概要	4
2. 2009 中国国際人材交流大会	5
3. 深圳市都市計画設計研究院	9
VI. 北京市での訪問先とその概要	11
1. 北京市の概要と歓迎会	11
2. 中国国際人材交流基金会との協議	12
3. 中国—日本 技術交流会 2009	17
4. 華北電力大学	22
5. 清華大学	23
6. 北京交通大学	24
7. 北京理工大学	25
VII. 山東省済南市との訪問先とその概要	26
1. 済南市の概要	26
2. 山東省外国専門家局	27
3. 山東大学	27
4. 山東師範学院	30
5. 山東交通大学	31
6. イノベーションパーク	32
7. 山東万博科技社	33
8. 山東麗達外国語職業培訓学校	33
VII まとめ	35
VIII 編集後記	36
1. 持参資料一覧表	37
2. 中国でのホームページでの情報	38



深圳市「中国国際人材交流大会」



北京市 超え社での技術セミナー

訪中期間 平成 21 年 11 月 5 日(木)～11 月 14 日(土)  
 (社)日本技術士会海外活動支援実行委員会



編集、文責：海外活動支援実行委員長 杉山篤

共同作成者：海外活動支援実行委員会副委員長 佐藤修

共同作成者：海外活動支援実行委員会委員 西澤紘一

共同作成者：北海道支部 熊井敬明

共同作成者：海外活動支援実行委員会副主査相当 熊沢壽人

2009年11月27日

**要旨**：中国では国内外の専門家の技術交流の促進を図るために、国家外国専門家局主催による中国国際人材交流大会を毎年開催している。09年の大会は前年に引き続き深圳市での開催が計画され、09年9月に国家外国専門家局から、招聘状が届いた。この大会では、国内外を含め、政府機関、公益機関、技術・学術団体、主要企業、大学などが参加し、人材、技術、交流に関する情報交換、展示説明会が開催される。昨年は、約7万人の参加と3000件の業務需求があった。

(社)日本技術士会はその活動を中国中心として、参加各国にPR活動を実施するとともに、技術士会及び技術士の一層の中国との技術交流と協力を促進するために、本大会に参画する計画を立てた。

今回深圳への大会参加にあわせ、北京での技術セミナーの開催、中国国際人材交流基金会と技術交流の詳細打合せ、山東省済南市での技術士会・技術士に関するPR活動並びに各地で大学を訪問した。なお、中国との関係機関との調整連絡は、在日中国国際人材交流協会総代表陳化北氏の熱意ある対応によるが多かったことを記して謝意を表す。

本報告書は、中国各地の各機関を訪問し、技術士会・技術士の活動に関しPRをしたものを参加者5名が分担をして、報告書として取り纏めたものである。なお、もし独断的な記載や誤りの記載、記載漏れ等ありましたら、お許し願いたい。

## I. 訪問目的

今年の7月に技術士会会長が中国国家外国専門家局を訪問し、技術協力・交流の協議、協議書の交換をした。今回の旅行で一層の技術士会及び技術士の海外活動範囲を広げ、技術士会の一層の技術協力・交流の促進並びに両国の親善、発展に寄与することを目的とする。

## II. 参加者とその役割・分担

**参加者**：海外活動支援実行委員会メンバーを中心に参加者を募った結果、次頁の通りのメンバーとなった。

### 参加者名簿

参加者	技術士分野	主な分担、役割	備考
杉山 篤	建設、機械、総合技術	全体調整・総合責任者	委員長
佐藤 修	建設、総合技術	対外調整、報告書作成責任者	副委員長
西澤紘一	応用理学	技術セミナー企画、対外調整	委員
熊澤壽人	情報工学	総務、会計、済南、基金会担当	副主査相当
熊井敬明	機械	総務、折衝、済南担当	北海道支部

また、この訪中にあわせて、前在日中国国際人材交流協会陳化北総代表が北京、済南の各機関に同行され、技術士会のバックアップとともに中国側との調整・橋渡しをされた。

### Ⅲ. 訪問先

訪問・技術協議など実施した機関を下記に列記する。

具体的な訪問先は、行政機関2箇所、公益機関1箇所、大学7校、民間企業3箇所である。

- 1.山東省外国専門家局(表敬訪問、技術士会・技術士のPR活動)
- 2.中国国際人材交流基金会(技術交流の詳細打合せ)
- 3.華北電力大学(表敬訪問、技術士会・技術士のPR活動)
- 4.北京交通大学(佐藤修)
- 5.清華大学(西澤紘一)
- 6.北京理工大学(西澤紘一)
- 7.山東大学(表敬訪問、技術士会・技術士のPR活動)
- 8.山東師範大学(表敬訪問、技術士会・技術士のPR活動)
- 9.山東交通学院(講演、技術士会・技術士のPR活動)
- 10 超え 対中環境ビジネスコンサルタント株式会社(技術セミナーの開催)
- 11.山東麗達国際経済技術合作有限公司(技術士のPR活動)
- 12.万博科技有限公司(技術打合せ、技術士会・技術士のPR活動)
- 13.深圳市都市計画設計研究院(佐藤修)

### Ⅳ. 訪問行程

この訪中での訪問・技術協議・懇談・視察などの行程を次頁に示す。大会参加のための行程、ホテル、フライトは国家外国専門家局、北京滞在に関しては超え(KOE)社に便宜を図っていただいた。感謝の意を表す。

宿泊ホテル

- ①北京市：北京外国専門家大廈、北京台体賓館 ②深圳市：深圳雅枫国际酒店 ③済南市：山東大学賓館

月日	訪問都市	交通手段	発着時刻	行程及び活動	宿泊地 宿泊所	備考
2009 11/5 (木) 晴れ	成田 北京	フライト CZ4280 乗用車	F09:35 発 F12:30 着 H15:00 着 H22:00 着	成田第2ターミナル7時45分集合、搭乗手続き、搭乗し一路北京首都国際空港へ、入国審査後ホテルに直行する。明日以降の打合せ、海外招聘者歓迎晩餐会、荷花水上公園散策	北京 北京外国 專家大厦	出国手続(成田AP)入国手続(北京)AP
11/6 (金) 晴れ	北京 深圳	フライト CA1367 専用バス	H08:00 発 F09:30 発 F12:30 着 H18:00 着	北京首都国際空港から深圳空港へホテルで小休憩後、大会会場下見、資料の整理、掲示など15時より17時 深圳市都市計画研究院訪問(佐藤)	深圳 深圳雅楓 国際酒店	チェックアウト チェックイン
11/7 (土) 晴れ	深圳	専用バス	H08:00 発 H18:00 着	開会式、展示、資料の説明、他のブースの情報収集、高級人材招聘会など出席、資料の整理(8時半から17時)	深圳 深圳雅楓 国際酒店	
11/8 (日) 晴れ	深圳	専用バス	H08:00 発 H18:00 着	開会式、展示、資料の説明、他のブースの情報収集、高級人材招聘会など出席 資料の整理並びに招聘者会議(8時半から16時)	深圳 深圳雅楓 国際酒店	
11/9 (月) 小雪	深圳 北京	専用バス フライト CZ3159 乗用車	H08:30 発 F10:30 着 F13:30 着 H22:00 着	国内便で深圳空港から北京空港へ、雪の万里の長城見学、夕食後、王府井散策	北京 北京台体 賓館	チェックアウト チェックイン
11/10 (日) 曇り	北京	乗用車	H08:00 発 H20:00 着	KOE 社セミナー技術交流会(10時から16時) 超え社北京オフィスにて 華北電力大学表敬訪問(18時半から20時)	北京 北京台体 賓館	
11/11 (月) 小雪	北京 済南	地下鉄 列車 (D35次) 乗用車	H07:20 発 R08:20 発 R11:28 着 H20:00 着	早朝、地下鉄で北京南駅、列車に乗り一路済南へ 山東大学学長との会見、山東大学見学、ソフトパーク見学、万博科技会社訪問、清華大学、北京理工大学訪問(西澤)、北京交通大学訪問(佐藤)	済南 山東大学 賓館	チェックアウト チェックイン
11/12 (火) 小雪	済南	乗用車	H07:20 発 H20:00 着	山東省博物館見学 山東交通学院講演 14時半から17時 山東師範大学表敬訪問	済南 山東大学 賓館	佐藤副委員長、西澤委員帰国
11/13 (水) 曇り	済南 北京	乗用車 列車 (D38次) タクシー	H08:00 発 R18:16 発 R21:28 着 H22:00 着	済南市内視察 山東大学博物館、山東麗達社訪問、山東省外国専門家局表敬訪問、山東大学ソフトウェアハウス見学、趵突泉公園見学 夕方の列車で一路北京南駅へ、その後ホテルへ	北京 北京台体 賓館	チェックアウト チェックイン
11/14 (木) 晴れ	北京	乗用車 フライト CZ4281	H07:30 発 F14:00 発 F18:30 着	中国国際人材交流基金会との打合せ(国家会計学院4階,)9時から11時半 昼食 出国審査後搭乗、一路成田空港へ、入国審査後、解散	—	チェックアウト 出国審査、 入国審査





## V. 深圳市の訪問先とその概要

参加者5名は、深圳市訪問に当っては、北京経由のフライトとした。

### 1. 深圳市の概要

深圳市（しんせんし）は中華人民共和国広東省に位置する副省級市で、人口1200万人である。

香港の新界と接し、経済特区に指定されている。中国では、香港（\$23,125）・マカオに次いで所得が高い。住民構成の特徴としては移民都市であることがあげられる。元来は宝安县として一集落に過ぎなかったものが、改革開放経済の過程で外部より労働人口が流入して都市が形成され、広東省でありながら広東語が使われる比率が極めて低い地域となっている。

本来の漢音では深圳の圳の字を「シン」と読むが、字に含まれる川（セン）からの類推で、日本語ではこの都市を「しんせん」と呼ぶ。



香港と隣接する地理的重要性から1979年3月、宝安县を省轄市の深圳市に昇格させ、1980年には改革開放路線を採用した鄧小平の指示により深圳経済特区が指定されると急

速に発展した。なお、1981年副省級市に昇格し、1988年省級経済管理を認められている。

広東省の省都・広州市からほぼ南南東に位置し、珠江デルタ地域に含まれる。九龍半島の西側付根部広東省の省都・広州市からほぼ南南東に位置し、珠江デルタ地域に含まれる。九龍半島の西側付根部分に位置し、塩田港など巨大なコンテナ港湾を有する。北は広東省東莞市と惠州市、南は特別行政区・香港と接する。

## 2. 2009 中国国際人材交流大会

### 1. 目的

中国国内における国際的な専門家人材交流のために開催。

### 2. 開催概要

- ・ 主催者：国家外国専門家局、深圳市人民政府
- ・ 期間：2009年11月7日(土)、8日(日)
- ・ 世界45カ国から参加。

欧州を中心とした22組織を招待。(英、米、仏等は複数組織。アジアからは日本のみ。)会場となった深圳会展中心は、市の中心部にありホール面積220万㎡、東西に540m南北に282m、標準ブースが同時に5000個、六階建て建築総面積が28万㎡の広大な展示場である。展示の準備は、開催前日の15時から約2時間かけて、ポスター15枚と毛筆で書かれたスローガン、両国の国旗をバランスよく掲示した。

## 3. 実施状況

### 1) 全般

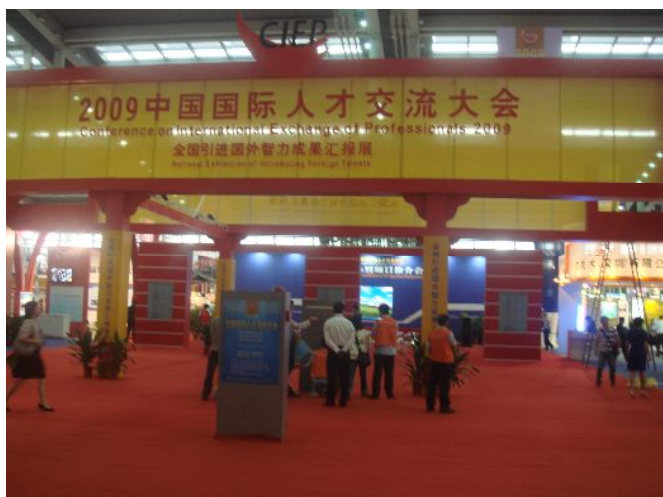
- ・ 欧米を中心として多くの先進国からの専門家組織関係者が集まり、各組織と中国の政府・企業等のニーズとのマッチングが行われた。
- ・ 各専門家組織に対してブースが割り当てられ、各ブースで組織の活動状況等の説明が行われた。
- ・ 専門家組織としては、日本技術士会が5名と最大規模の参加となっていたようで、その他組織は1名あるいは2名が多く、通訳を置いてないところもある。日本技術士会は新参者であるせいか、中国政府の認識も今のところ強くないように感じられたが、一方ブースでのやりとりから地方政府や企業からの日本の技術や経験への期待は大きいと感じられた。
- ・ ブースの展示内容を見ても、日本技術士会の内容は最も充実していたと考えられ、





展示物が一切なく事務局が用意した机に1名でただ座っているブースも見受けられた。

- ・ 欧米の多くの組織は、中国での活動期間も長くまた実績も多いように見受けられた。シニアによる非政府あるいはボランティア組織が多く、参加者の年齢層も30歳台～80歳代と広い年齢層（高齢の女性を含め）に亘っていた。80歳代の年齢層の欧米人は相当長期間中国国内での活動に携わってきた模様である。

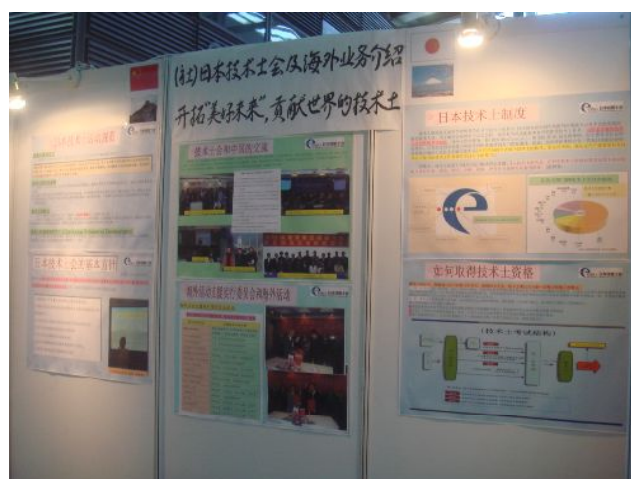


## 2) 日本技術士会の紹介・PR

### ①ブースでの説明・PR

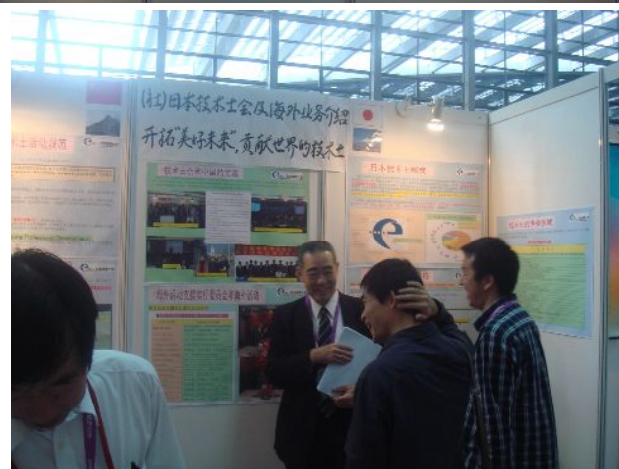
大会会場の2ブースのスペースで、日本技術士会の紹介及び活動状況等の説明を行うとともに、技術指導等の要請（需求表）を受け付けた。

技術指導等は主に、地方政府外国専門家局からのものと企業や人材紹介会社からのものがあり、これらの技術指導要請については、帰国後整理の上会員からの応募者の募集を行う予定である。省・市等地方政府関係約40、メーカー・人材紹介会社関係約60程度となり、多くの需求表を持ってブースに来た関係者もある。



### ②省・市政府ブース訪問・PR

会場内に設置された地方政府（省・市）のブースを訪問し、技術士会の紹介・PRを行った。本ブースは、地方政府外国専門家局の職員が各政府のPRや専門家への相談・意見交換等を行っており、この訪問により多くの地方政府に対する第1段階のPRができた。



### ③その他

大連市専門家局関係者とのやり取りの中から、東北3省（黒龍江省、吉林省、遼寧省）の窓口として大連市が役割を担うというアイデアも出された。個別地方政府との直接的なやり取り以外の方策として、検討したい。

### 3) 課題

本大会への参加を通じて、日本技術士会会員が保有する専門的な知見を中国国内において提供することに対して大きな潜在的ニーズが存在することが確認できた。

また、大会参加を通じて省・市レベルでの外国専門家局や企業等関係者との人的ネットワーク構築の初期的な足がかりはできたものと思われる。今後、本大会参加を通じて得られた知見やネットワークを形のあるものにしていくためには、以下のような取り組みが必要となるものと思われる。

- ・ 継続的な大会参加  
：政府（国、省・市）、団体等との人的つながり
- ・ 省・市等との日常的な情報交流  
：具体的な課題や解決策等をやりとりできる環境づくり（メール等）
- ・ 技術士会側からのプロジェクト提案  
：中国側からの単発的な人材斡旋・紹介から脱却した形の模索



佐藤 修 記

## 4. 中国側主催者（国家専門家局）と招待参加国代表との懇談会

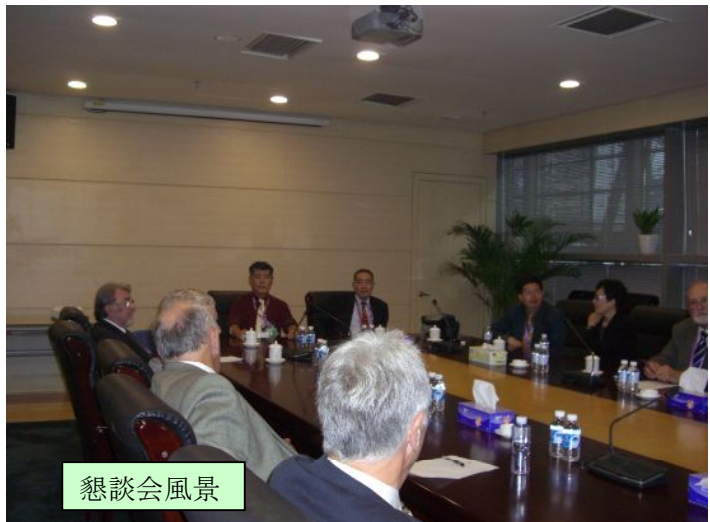
1) 日時：2009年11月8日；午後1時から2時まで

2) 場所：会場内会議室

3) 出席者：招待者26名（日本側から、杉山篤委員長と西澤紘一委員が出席）

4) 議論内容：以下の通り

最初に組織委員長から、招待者へのねぎらいの気持ちが表せられた。中国といえども昨今の経済情勢は、決して楽ではなく予算を相当削られたので、不便をかけたのではないかと弁明もされた。この大会を改善してゆくために意見やコメントが頂きたいと結ばれた。





オランダ代表から口火が切られた。初日の午前中は、大勢の入場者があり、対応に苦労したが、昨日の午後と今日は、極端に少なくなり、時間を持て余した。入場者の平均化が望ましいとのコメントとともに、幾つかのプロジェクトに実施可能性が出てきて、主宰者へ感謝したいという発言があった。そのあと、ベルギー、フランス代表から同じような趣旨が出された、特にフランスからは、中小企業からの提案に対応したいとのコメント、スウェーデン代表からは、短い時間で多くの来訪者と対応しなければならないため、互いの理解度が合わずに不満が残ったと発言があった。イタリア代表から、何が課題なのか、如何にしてほしいのかが明確でなく、対応に苦慮したと発言あり、そのあと、日本側から、ブースの場所がメイン通りから離れてしかも行き止まりであったことにクレームをつけた。

(通りから良く分かるような看板などの設置を求めたいとの意味を含めたつもり) 主催者側が用意してくれた質問票(中国語と英語)は極めて効果的であった。口頭だけでは、なかなか理解が進まないが、文書として具体化することの効果強調した。1対1でプロジェクトを個別に対応するのではなく、まとめ役(技術士会や専門家局)を通して組織的にプロジェクトを立てることも考える必要があるとコメントした。(大連の私企業が、東北3省の支援を受けてまとめ役を買って出たいとの提案が背景にある)

そのあとは、英国、ギリシャ、ドイツ、カナダとコメントがあったが、これまでの実績があり、かつEUなどの支援を受けたプロジェクトが成功裏に進んでいるとの報告があった。オーストラリアからは、農業、医療、森林、水産、自動車



関連等の質問や支援要請が多くあったとのコメントがあった。いずれも長期的な対応が必要であり、じっくり取り組む必要がコメントされた。ドイツからは、プロジェクトの選択と集中が重要なこと、プロ技術者が本気で取り組まないと成功しないとの追加意見が出された。ベルギー代表からは、技術と財政支援の両輪が必要であるとのEUプロジェクトの例を引いてコメントされた。

ロシア代表からは、50近いプロジェクトの支援要請があった。ただし、プロジェクトの課題が明確でないもの、誰が責任者なのかが不明なもの、通訳の不慣れ(特に技術者でない場合)で互いに理解が出来ない課題などがあったことが報告された。課題を文書(英語で可)で明確に書き下ろして提案してほしいとの強い意見を出していた。そのあと、フランス代表が、プロジェクトの定義が明確でない、誰が契約の当事者か不明であるとの同調意見があった。

ベルギー代表が、35プロジェクトもの提案があり、国に戻って対応を検討するとのコメントがあり、次いで英国が、農業、IT、食品処理などの課題が出され、大変興味を持ち、対応を急ぐとの前向きな意見が出された。

米国代表からは、課題の提供と解決手段である技術について、前もってデータベース化が出来ないかとの提案があった。Web上で事前の議論を詰めておけば、面談の際に共通理解のもとで解決策を話すことができる。この意見については、各国代表が賛意を表してい

た。

最後に主催者側から、10年近く続けてきたが時代も変わり、技術的な要求課題も様変わりしてきた。我々は、プロジェクト課題や必要な技術の世界に対してオープンすることで、相互啓発しつつ世界に貢献してゆきたい。

最初は、規模も小さかったが最近では、規模も大きくなり課題も多様になってきた。しかも財政支援は、年々削減される。そこで、国を超えた支援、さらに企業や企業連合からの支援も検討して行きたいと考えている。

今年の大会も成功裏に終了し、参加者の皆様のご支援に感謝したいと結んだ。会議の最終時に、専門家局の外国支援グループに認定された米国とギリシャが紹介された。中国の自立プロジェクトを支援する国際的な枠組みの模様。



## 5：まとめ

- 1) 中国は、欧州、特に EU の支援を期待している。欧州の技術指導の団体は、シニア技術者から成るボランティア団体が多い。企業からのビジネスからの要請を背景にしていないだけに余裕がありフェアな支援ができそうだ。
- 2) 中国の窓口として、中国系の技術者が対応している。(オーストラリア、英国など) 支援国としての戦略を感じる。オーストラリア代表は、中国語で挨拶をして、そのあと英語に切り替えてコメントを発言した。中国側にとっては、安心安定感がある。
- 3) 国際的な人材交流がメインであるが、会場の半分くらいで中国企業が、学生や求職者のリクルート活動を行っていた。日本ブースにも求職活動に誤解されたところもあった。
- 4) 外国代表は、中国側からの招待があったために参加したとの印象が強く、展示などで積極性があったとは言い難い。自己負担で複数人参加したのは、日本代表くらいであろう。にもかかわらず中国側の日本に対する対応に期待感が見られなかった。ブースの設定箇所や万国旗の掲揚がなかったことから配慮に欠けた所があったようだ。

西澤 紘一 記

## 3. 深圳市都市計画設計研究院

### 1. 訪問目的

中国のインフラシステム及び計画設計研究院における業務内容を確認するとともに、技術士会に対する期待等を探る。



## 2. 訪問日時、面談者

日時：2009年11月6日 PM3:00~5:00

面談者：深圳市都市計画設計研究院行政計画研究所 所長 丁年

## 3. 組織概要

- ・深圳市都市計画設計研究院は市計画局の一部となっており、350人の体制。  
(市計画局の組織が独立したビルに入居している。)
- ・行政計画研究所は50~60人で都市計画の業務を実施している。
- ・当設計研究院では、道路・橋梁、上下水道、港湾等の計画・設計業務を実施しており、河川については、水利設計院という組織がある。

## 4. 土木・建築分野の専門組織・企業等

- ・都市計画は、市の行政組織で実施していることが多い。
- ・道路・橋梁や、建築等の設計業務は民間設計院で設計業務を実施している。  
深圳市内に20~30の建築系設計院がある。
- ・技術者は博士、修士の資格保有者も多く、東北地方出身の技術者も多く働いている。  
(ハルビン工科大学等)
- ・執務環境は静かで、小仕切りとなった個人のスペースで快適にパソコンに向かいながら業務をこなしている。

## 5. 技術者資格

- ・技術分野の公的資格は以下のようになっている。

### 1) 資格階層

- ・助理工程師：大学卒業後1年
- ・工程師：助理工程師として3年の経験が必要
- ・高級工程師：工程師として5年の経験が必要  
以上から高級工程師となるためには、最短で大学卒業後9年の経験が必要となっている。

### 2) 試験

- ・試験は計算機技術と外国語の2つがあり、深圳市の場合は広東省の試験を受けることとなる。

### 3) 国と地方の関係

- ・資格の基本的な事項は国で定めているが、試験は省が実施している。

## 6. 都市計画

日本と中国の都市計画制度などの違いは以下のとおり。

- ・日本の線引き制度のようなものはある。
- ・市街地の道路を通すなどの場合、日本では合意形成に時間がかかるが、中国は日本のような私権が認められていないこともあり、比較的短時間で建設できる。  
近年は、市民側から反対の意思表示もできるようになっている。裁判はあまりないが、



市に対して抗議行動等を起こすこともある。また、補償が困難になってきている。

## 7. 入札・契約方式

- ・ 深圳市では、2008年度まで、個別に委託先を指名できたが、2009年度から技術と価格の両面から委託先を選定するようになった。
- ・ 入札システムは地域によって異なる。
- ・ 財務当局は設計費を安くするよう要求してくる。

## 8. 日中間の技術協力について

- ・ 中国側は日本でどのような技術をもっているかについて具体的にわからず、日本側は中国側でどのような技術課題を抱えているかよくわかっていない。
- ・ 技術の提供側受け取り側をつなぐプラットフォームのようなものがあるとうまくいくかもしれない。



佐藤 修 記

## VI. 北京での訪問先とその概要

北京では技術セミナー、華北電力大学訪問以外は、個人が別々に各機関等を訪問した。

### 1. 北京市の概要と歓迎会

**(1)北京市の概要**：北京市は、中華人民共和国の首都であり、中国の最高権力機関である中国共産党中央委員会の所在地。中国の東部、河北省の中央に位置する。古くは大都・燕京・北平とも呼ばれた。

現在の行政区画としては、直轄市である。面積は日本の四国に相当する広がりを持つ。人口は1,700万人で、直轄市の重慶、上海に次ぐ中国第三位の都市であり、アジアを代表する世界都市である。

中央官庁が集積している他、紫禁城や天安門広場、庭園、古くから市民の居住する街並みである胡同などがあり、海外から



の観光客も多く訪れる都市である。

2008年8月8日～8月24日に09年夏季オリンピック（北京オリンピック）が開催され、宿泊したホテル北京外国専門家大厦は、歩いて15分程度のところにある。

## (2) 深圳大会の歓迎晩餐会

11月7,8日の開催の「中国国際人材交流大会」に当り、ドイツ、フランス、アメリカなど技術士会の参加メンバーに対して、主催者である国家外国専門家局が北京外国専門家大厦において11月5日に歓迎会を実施した。招聘参加メンバー約40名と大会開催中に招聘者をアテンドする専門家局職員と会食をした。最初に陸副局長の挨拶と招聘者の代表などを紹介と挨拶があり、約1時間程度の歓迎晩餐会は無事終了した。

国家外国専門家局の技術士会への対応は、国家外国専門家局経済技術専門家司計画処長馮立民氏であった。大会開催中大変にお世話になったことを記して、感謝の意を表す。



歓迎会風景

## 2. 中国国際交流基金会との技術協議

### 中国国際人材交流基金会との打合せ議事録

氏名	所属	役職
王海洋 Wang Haiyang	中国国際人材交流基金会	主任
鄒力 Zou Li	中国国際人材交流基金会	部長(司会)
楊冬偉 Yang Dongwei	中国国際人材交流基金会	信息術項目部(通訳)

各基地からの出席者の詳細は、後述する。

**1. 開催の経緯：**7月に中国国際人材交流基金会との覚書交換をし、具体的な技術交流、協力の打合せを技術士会、基金会並びに各基地との打合せをしたいとの考えが、その後、何回かのメールで交換をして今回3者で打合せを実施することとなった。技術士会からは、杉山篤委員長、熊沢壽人副主査相当、熊井敬明北海道支部が参加した。

**2. 開催日時：**2009年11月14日(土) 9時から11時半

**3. 会議場所：**国家会計学院行政楼4階会



会議風景

議室(北京首都国際空港の近隣)

#### 4. 会議内容：以下、各出席者の発言趣旨を記す。

会議は、基金会の鄒力部長の司会で開会した。

##### (1) 王海洋主任の表明(主催者を代表して)

7月に覚書を交わし協議を行った。技術士会を紹介してもらい、その業務提携に参加する意思がある。

- 技術士会と協力してソフト開発や人材育成を実践していきたい。
- 技術士会の協力によって、人材養成基地が特異なものになっている。
- 陳化北先生から技術士会を紹介して貰ったことに感謝している。

##### (2) 陳化北氏の挨拶

- IT産業と技術士会と今後どのように提携していくかについて、ある程度の理解が得られている。
- 限られた時間内での打合せの中で、各ニーズを把握した上で、何をしたら良いか協議をしていきたい。
- 人材交流基金会として何が重要か、ニーズを見直して技術士会と整合を図った上で、ニーズを訂正し、具体的な展開を行っていくために、ITの専門家と具体的に検討していくことが必要である。
- 杉山先生をはじめ3人の方と打合せ協議を行い、素案の考え方について交流を行い、良いチャンスを生かして相互理解の上で、プロジェクトを展開することにより実りのある実績が結実することを祈念する。

##### (3) 徐明(先鋒服务外包教育有限公司)

- 社員100名以上の企業で、ソフト開発を行っている。
- 大学4年生にコンピュータを使って技術の実践訓練を行っている。
- 日本技術士会との交流において要望することは、中国のソフト技術は日本の技術と比べて較差があるので、優れたソフト技術を日本から導入して中国の市場を開拓したい。
- 日本の専門家を派遣して貰い、一緒にソフト開発を行いたい。
- 日本語教師を1~3ヶ月間ほど来て頂いて交流を図りたい。
- 日本技術会を通して留学する日本の大学を紹介して頂きたい。

##### (4) 东北大学软件学院

- 情報サービスを発展させるためソフト学院で人材養成基地を創立し、社会経済の発展やソフト開発人材の育成に貢献してきている。
- アメリカから専門家を招聘している。イギリスに短期留学している。





- 日本語文書処理技能は3級に達し、一部は1～2級に達している。
- 日本企業の面接を受け、留学や中国内の日系企業に就職している。
- 8か月の教育、6+1+1で日本語教育を行って欲しい。
- 日本技術士会に指導を頂き、卒業論文を書き上げたい。
- 英語のできる技術者による指導をお願いしたい、IT企業の交流を通して親密度を深めていきたい。
- 産学の連携により情報の相互提供やソフトの実践を進展させたい。
- 定期的な研究会で論文を共同で発表する場を設けるとともに、経験を生かした指導が欲しい。

#### (5) 吳祖明（西北工業大学）

- 西安は永い歴史を持っている。日本の京都と文化、技術交流がある。
- 日本の大学及び企業と協力した経緯があり、その協力経験を積み上げ、発展させることができる。
- 技術士会の来訪を歓迎する。協力内容としては、人材の育成、教師の育成などに関して日本企業の紹介や技術者の派遣において、実践できれば良い。
- 技術士の試験を利用して、大学や企業と協力して科学研究室を建設し、相互訪問によって交流を深めていきたい。

#### (6) 楊光（国家信息通信国际创新园管理委员会）

- アウトソーシングを行っている。ハイテクノロジーの技術が不足しているのが大きな課題である。
- 日本の持っているハイテクノロジーについて一番詳しいと思っている。共同でマーケットを開発していきたい。
- IT企業の規模が小さ過ぎ、1,000名以上の企業が少なく、200名以下が実情である。100～400名規模の大手企業になれるように指導して欲しい。
- 日本と提携しグローバル化を目指すインフラ整備を実施したい。
- ソニーや東芝が海外に進出しているが、日本の中小企業の中国進出が難しいのか少ない、中国に進出したい場合には、共同で対応していける。WIN,WINの関係を作りたい。

#### (7) 徐艳华（大连交通大学）

- 7,000人の学生が就学している。ソフト、交通、電気、土木、安全等の学科がある。
- ソフト開発、グラフィックを行っている。
- アメリカ、韓国、日本の大学との交流を行っている。早稲田大学、岩手県立大学、名古屋大学、国際文化学院で日本語の勉強をして、卒業後、日本の企業に就職している。
- 技術、コンピュータ、ソフトウェア、日本語の学部日本の先生を派遣して欲しい。
- 定期的にソフト開発や日本文化を教育してくれるのが望ましい。
- 第二外国語として日本語の専攻、非専攻とも日本語を勉強している。

### (8) 周伟名（北京大学）

- 情報工学の修士資格者は 2000 人いる。
- 陳化北さんの紹介で教師を招聘している。実務経験のある技術者を受け入れているが、欧米からは教授が来ているが、日本からの先生は少ない。原因として日本語のレベルが低いからか？
- 個人と話しても難しいので、実務経験の高い経営工学などの技術者の派遣を短期でお願いしたい。
- 小さなプロジェクトを拡大し、直ぐ実行できるようにしたい。



### (9) 杉山篤実行委員長

- この開催に当り、基金会に感謝する。
- 出来るものと出来ないものがあるが、技術士会としての特長を生かせるものは、積極的に協力できる。
- 帰国後、関係者を集めて打合せをする。
- 必要があれば来日され、更に詳しく具体的な説明をしてほしい。

### (10) 王海洋主任

- 日本技術士会と同一基金会を設立したい。
- 資金については中国の人材交流基金と日本技術士会の折半で進めていきたい。
- 完成品の権利は、基金会 1/3、技術士会 1/3、作成した企業 1/3。
- 成果が出なければ基金会の提案は、中止する。

### 5. 熊澤壽人技術士の所感

各地域から出た要望は、日本語教育や、IT に関するソフト開発の技術指導なども見られたが、日本企業からの受託や日本企業への就職などが多く見られた。

IT に関するソフト開発の技術指導について



出席者とともに (学院前)

は、一般的な要望であった。ソフト開発の現状は技術の幅も広く、どのような環境で使用するかなどの前提条件で技術の方向も異なり、専門知識も異なる。これ等が定まらないと協力体制も絞れないので、今後更なる具体的な打合せが必要であると感じた。

## 6. 出席者の詳細

2009 北京国家软件人才国际培训基地与（社）日本技术士会项目对接会名单						
基地	大连	南昌	沈阳	济南	西安	北京
代表	郑可为（男）	汪志坚（男）	韩冬梅（女）	王罡（男）	吴祖明（男）	范宇峰（女）
	徐艳华（女）	徐明（女）	李姐（女）	杨光（男）		周伟名（男）
职务	大连交通大学软件学院 副院长	先锋服务外包教育有限公司 董事长	东北大学软件学院 院长 外事助理	济南齐鲁软件园 对日业务 主管	西北工业大学软件与微电子学院 副院长	北京大学软件学院 副主任
	大连交通大学软件学院 外语教研室 主任	先锋服务外包教育有限公司 董事长助理	东北大学软件学院 日语教师	济南基地 联系人		北京大学-Acom金融 信息化研究中心 副主任

国際ソフトウェア人材養成基地と（社）日本技術士会との打ち合わせ出席者名簿						
基地	大連	南昌	瀋陽	済南	西安	北京
氏名	鄭可為（男）	汪志堅（男）	韓冬梅（女）	王罡（男）	吳祖明（男）	範宇峰（女）
	徐艷華（女）	徐明（女）	李姐（女）	楊光（男）		周偉名（男）
職務	大連交通大学ソフトウェア学院 副院長	先鋒サービスアウトソーシング教育有限会社 理事長	東北大学ソフトウェア学院 院長助役	済南基地の日本向け業務の責任者	西北工業大学ソフトウェア・マイクロエレクトロニク学院 副院長	北京大学ソフトウェア学院 副主任
	大連交通大学ソフトウェア学院外国語研究室 主任	先鋒サービスアウトソーシング教育有限会社 理事長助役	東北大学ソフトウェア学院 日本語教師	済南基地 連絡員		北京大学-Acom金融 情報化研究センター 副主任

7. 中国国際人材交流基金会ホームページ: <http://www.citef.org.cn/>

熊澤壽人、熊井敬明 記



### 3. 中国—日本 技術交流会 2009

- 1. 日時：2009年11月10日
  - 2. 場所：KOE 公司北京事務所(国際ビル19階)
  - 3. 主宰：超え対中国環境コンサルティング株式会社
- 協賛：(社)日本技術士会海外活動支援実行委員会有志

#### 4. プログラム：

- 10:00 杉山篤委員長 基調講演
- 10:30 佐藤修副委員長 講演 “日本における交通分野での温暖化対策”
- 11:30 昼食
- 13:00 西澤紘一委員 講演 “光通信技術の現状と動向”
- 14:00 熊澤壽人委員 講演 “情報システムにおける課題と将来展望”
- 14:30 熊井敬明技術士 熱遮断塗装、
- 15:00 意見交換



#### 中国—日本 技術交流会 2009

主催	社名：超え対中国環境ビジネスコンサルティング株式会社 住所：〒1010062 東京都千代田区神田小川町2-2-20 光輪ビル402 TEL：03-52918189 FAX：03-52918189
協賛	松田浩人 日本技術士会海外活動支援実行委員会
日時	平成21年11月10日(火) 10:00-16:30
会場	超え対中国環境ビジネスコンサルティング株式会社 北京オフィス 余維宣 住所：〒100035 北京市西城区西便門大街2号 成威大厦B座1906 TEL：+86(10)62225001 FAX：+86(10)66001008
テーマ	【日中技術交流会 -日本の技術士を招いて-】
対象者	中国一般企業技術者・独立技術者
セミナーの目的	中国においては環境対策のニーズが日々高まっている。それに伴いこれまで行われてきたトップダウン型技術移転だけではなく、ボトムアップ型技術移転の必要性も高まりつつある。そのため、日本の技術者の中でも特に「視野を見て、それを最適化することを専門とする技術者の存在」を招き、環境に関連のある技術移転に関して簡単なプレゼンテーションをして貰った後、その情報を元にフリーディスカッションを行なうことで、日中の両者の意識の共通化と相互理解を促進させることを目的とする。
備考	※定員数の定員：20名(弊社社員込) ※当日余額にて資料記者の子定

KOE社は、対中国環境コンサルティングビジネスとして、CDM(Clean Development Mechanism)を取り上げ、中国における二酸化炭素ガスの排出権認定(国連の機関を介して)を受け、日本の企業に売り込むことをメインとしている。したがって、本社を東京に置き、日本企業として登記している。北京は、支店北京事務所として登録しているが、実際の仕事の大部分は北京で実施している。今般、特別講演を当実行委員会10月度例会(2009年10月23日)で陸宇暉社長に“中国とのコンサルティングビジネスの課題と展望”について講演してもらい、そのあと当実行委員会の有志による中国調査団が北京滞在中に、KOE社が“中国—日本技術交流会”を



開会に当り陸宇暉社長挨拶

企画運営してもらい講演会を運営してもらった。KOE社は、事前に講演内容やテキストを作成し、同社の会議室（20坪くらい）の設営と飾り付けをしてくれた。またKOE社経由で日本の技術に興味を持つ十数社をゲストとして招待した。

## 5. プログラム経過：

9時半ごろ会場につき、深圳で掲示した技術士会の活動内容のポスターを数枚壁に貼りつけた。技術士会のパンフレット（中国語版）、その他持参した数種類の資料やパンフレットを会議室の用意されたテーブル上に置いた。参加者は、適宜手にとって持って行った。

会議が始まったのは、前日の降雪の関係から予定から大幅に遅れて10時半ごろであった。陸宇暉社長が、歓迎のあいさつと今回の講演会の意義を中国語で説明して、会議が始まった。

逐次通訳であったが、KOE社の張さんと陸宇暉社長自らが通訳を買って出てくれた。当方の講演は、日本語で参加者には、十分意思伝達ができた。

### 1) 杉山篤委員長の挨拶と基調講演

KOE社と当実行委員会とのこれまでの経緯、今回の自主的な民間ベースでの講演会が開かれた意義などを述べた。基調講演部分では、信頼と安全と環境が3つのキーワードであること、目的・目標を明確にしないといかなるプロジェクトもうまくいかないことを強調した。金銭的利益だけではなく互いに尊敬されるビジネスを展開してゆきたいと結んだ。通常の講演と異なり、ビジネスの姿勢そのものの内容であり、参加者へのインパクトと印象は強かったと推察する。



### 2) 佐藤修副委員長の講演

日本を取り巻くグローバルな環境問題を解説、特に環境に対する公共交通システムの課題や役割について述べた。拡大する都市がコンパクトシティに変化しているとの説明に、フロアから質問があり拡大した都市構造でも環境対策は可能だとのコメントがあった。中国の技術者の受け止め方は、まだまだ近視眼的でかみ合わない部分も多いにあると認識した。

3) 昼食：昼食は、12時半ごろからKOE社のビルの2階にある中華レストランで参加者全員を招待してくれた。27名が3つのテーブルに別れて会食したが、英語が通じなくて苦労したが、中国語の通訳を介していろいろな話げできた。

#### 4) 西澤紘一委員の講演

午後の講演は、2時からのスタートであった。光通信の現状と将来について解説した。加えて、光ファイバセンサの原理と応用例を紹介したが、参加者から興味が示された。特に橋梁、トンネル、道路などの監視、モニタに光技術を利用している事例には、興味を持ったようだ。

工業用光センサよりも環境計測として都市基盤のモニタ用光ファイバの導入の可能性を感じた。その他、農業や食品への応用についても触れた。



講演する西澤紘一委員

#### 5) 熊沢壽人副主査相当の講演

情報システムの受発注システムの合理化について紹介した。特に全体のシステム構築が短時間で済むことを強調した。すぐに役立つノウハウを教えてほしいとの質問があり、システム構築コンセプトや考え方の基本を理解してもらうことはなかなか大変である。



講演する熊沢壽人副主査相当

#### 6) 熊井敬明技術士の講演

環境課題全体を俯瞰した格調高い講演であった。環境を考慮しないプロジェクトは今後成立が困難であることについて事例を介して解説した。最後に、断熱塗料の説明があり、興味を持った参加者がいた。全講演が終了したのは、ちょうど午後4時で、当初の計画通りであった。

最後に杉山篤委員長、陸宇暉社長らがいくつかのコメントを述べて無事終了した。



講演する熊井敬明技術士

#### 6. コメント :

- 1) 準備期間が短く、技術交流会の意義や運営方針の相互理解に至るまでのプロセスが大変であった。文化の違いを痛感する。
- 2) 結局は、KOE社主宰で当方は有志で協力という形で合意ができ、当日は、彼らなり



に最大の準備をしてくれた。特に歓迎の垂れ幕は、わざわざ準備をしてくれていた。テキストも期待以上ではなかったが、参加者には全員配布して、理解を深めてくれた。

3) 中国側の歓迎は、最大限のものであった。特に昼食は、レストランのテーブルを3卓予約し、参加者と我々との対話がうまくいくように気を使ってくれた。かならず日本語の分かる社員がアテンドしてくれた。

4) 完全な民間ベースの中国—日本の技術交流会（講演会）は、あまり例がないと思われる。参加者も殆どが民間企業の幹部社員であり、北京外からも来てくれていた。

5) KOE社は、CDMビジネスがメインではあるが、関連ビジネスにも興味があるとのことで、中国国内でプロジェクトを拾い起こす際に当技術士会の支援を意識し、期待して対応するとの言質を得た。

6) 今後、目的（テーマ）を絞って、そのテーマに関連しかつ興味のある企業の幹部を招待し、講演会を開催することは意味がある。さらに講演会後に実際に企業を訪問し、省エネ診断などができるとビジネスにつながる。そのためには、相当の準備と事前理解が必要であるが、今回の交流会を介して当方のポテンシャルと意思を理解してくれたようである。

7) 準備不足と理解不足のまま交流会を実施したが、参加者には、一定のインパクトを与えることができた。専門家としての技術士の意味と我々が何を如何に支援できるかについて理解してくれた。今後の反応を待ちたい。



技術交流会の聴講者



技術交流会終了後、超え社員と講演者

**7. 参加者名簿**

日中（节能）技术交流会签到表

序号	姓名	单位	职务	是否到
----	----	----	----	-----

1	张卫东	UNDP	环境与能源组	
2	郭建强	中国国际工程咨询公司	综合业务部主任	
3	弓海旺	中国国际工程咨询公司	国际业务部副处长	√
4	宋忠奎	中国节能协会	副秘书长	
5	胡秀莲	发改委能源所	研究员	
6	尹崇义	中国资源综合利用协会	首席专家	
7	郑佳	德丰杰投资（北京代表处）	投资分析师	
8	张彤	丰祥国际资本集团	合伙人	
9	陈英	节能投资公司		
10		国家半导体照明工程研发及产业联盟		
11	杜德利	德利国际新能源控股有限公司	董事长	√
12	陈伯熹	德利国际新能源控股有限公司	副总裁	√
13	殷杰	德利国际新能源控股有限公司	首席财务官助理	√
14	马静	中国石油国际事业公司	业务主管	
15	周立德	节能专家		√
16	王力军	山东胜利油田动力机械厂	瓦斯发电设备北方地区负责人	√
17	郭明	山西煤层气协会	北京联络处主任	√
18		山西煤层气协会		√
19	高岩	河北中金高新投资咨询有限公司	副总经理	√
20	任保清	河北中金高新投资咨询有限公司	总工程师	√
21	蒋汉华	GEF 中国节能促进项目办公室	顾问	
22	金薇薇	北京中关村国际环保促进中心	总经理助理	√
23	张新梓	道合环境与发展研究所	资深项目官员	
24	刘光夫	道合环境与发展研究所	项目官员	√
25	黄俊鹏	国际铜业协会	项目经理	
26	张卫红	北京产权交易所	产权交易经理	√
27		北京产权交易所		√

## 8. ホームページ：http://www.cncdm.cn/

西澤紘一 記

**暫時休息**：北京滞在において、ほとんど観光がなかったが、11月9日深圳からのフライトで北京空港到着後、直ちに万里の長城に向かった。長城に近づくにつれて、雪が降ってきた。ようやく到着して、駐車場から入口まで15分間、歩き足元が悪い、寒い。ようやく入場口に来た。



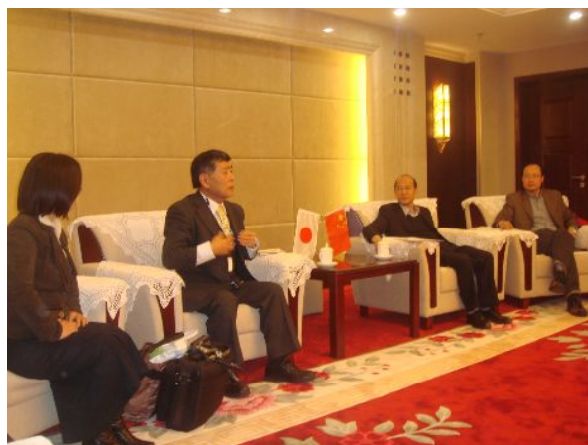
雪の万里の長城

3名はチケットを購入して入ったが、すぐに戻る。当方はスターバックスで、コーヒーを飲む。帰りは、下り坂で安全運転、無事北京に戻る。やれやれである。途中、スリップでの交通事故多数あった。雪の万里の長城、よき経験し、よき思い出となった！！

## 4. 華北電力大学

### 1. 訪問概要

- ・訪問日時 : 2009年11月10日 18時から19時
- ・面談者 : 華北電力大学 李成榕 副校長 他2名  
国家外国専門家局 陳化北  
超え(KOE)社 陸宇暉  
日本技術士会海外活動支援実行委員会 杉山 篤 委員長他4委員



### 2. 大学概要

華北電力大学は、教育部直轄の大学で211校の国家重点大学となっている。大学の創建は1958年で、最初の校名は北京電力学院、1969年河北省に移って、華北電力学院と改名した。1978年国務院において重点大学に指定され、1995年5月、華北電力学院と北京動力経済学院が統合し、華北電力大学となった。

中国政府教育部に置かれている全国72大学のひとつであり、特にエネルギー・電力に関する教育・研究に特徴がある。電力会社（7大電力会社）とのつながりが強く、経営面での支援を得ている。

発電に関しては、火力、水力、風力、太陽光、原子力等全てカバーしており、発電・送電等電力システムも全てカバーしている。

技術分野以外では、経済、経営、人文、教育、物理等を含め幅広い分野を擁している。

大学は、北京から約40分、万里の長城の方向にある。

- ・大学規模：教職員 2,000名、学部学生 2万名以上、修士課程 6,000名以上





### 3. 教育・研究面での特徴

現在日本の大学とは正式な連携はしていないが、個別には東京大、名古屋大、早稲田大等とやりとりをしたことがある。今後は、教育・研究面で正式に連携して進めたいと考えている。

スマートグリッド、再生可能エネルギー、CO<sub>2</sub>削減等分野で提携できれば良いと思う。技術士会には、日本の大学との間のパイプとしての役割に期待したい。

### 4. その他

杉山委員長から技術士制度、日本技術士会の紹介を行った後、華北電力大学との連携について、相互の信頼ができれば環境、安全等の分野で連携の可能性があるのでないかとの提案を行った。



### 5. ホームページ

<http://www.ncepu.edu.cn/DefaultForAuto.aspx>

佐藤 修 記

## 5. 清華大学

1. 日時：2009年11月11日 午前10時から13時

2. 場所：精密機器技術研究所（北京市精華園 精密系大楼 3108）

3. 面会者：金国藩教授（中国工程院 居士、米国光学学会フェロー）

譚梢峰副教授（同大学光電研究所副所長）

4. 講演内容：2006年上海で開催された微小光学に関するシンポジウムに招待されたことがきっかけで親交を得た。金教授は、中国光学会の重鎮であるばかりか世界の光学会でも重要な地位を占めている。中国における光学素子開発の先頭を走っており、ナノオプティクスに注力している。

1) まず今回の日本技術士会のミッションについて説明した。

一般的に大学では、基礎研究重点を置いており、製造プロセスや量産についてはあまり関心がないとのこと。しかし清華大学でも企業からの相談や共同開発の話は多いとのこと。

日本の技術の支援をお願いする場合もあろうとのこと、今後とも連絡を続けることとした。

2) 中国の微小光学分野は、日米のフォローアップからはじめて、あらゆる分野で世界最先端のレベルにある。



3) 光通信システムと光技術周辺応用についての講演を依頼され、30名くらいの大学院生を相手に1時間の講演を行った。特に光ファイバセンサーなどの応用については、関心を持ってくれた。

4) 午後の食事を一緒にして親交を深めるとともに、日本の技術士との交流を活発にしたいとの言質を得た。

5. ホームページ : <http://www.tsinghua.edu.cn/qhdwzy/index.jsp>

西澤絃一 記

## 6. 北京交通大学

### 北京交通大学との意見交換報告

訪問目的：日本技術士会と北京交通大学との協力関係の構築の可能性について意見交換し、今後の方向性を探る。

#### 1. 訪問日時、面談者

日時：2009年11月11日 午前10:00～12:00

(土木工学系実験施設視察含む)

面談者：北京交通大学 副校長 教授 陳 峰  
同上 国際協力交流処 処長 教授 徐 宇工  
同上 土木建築学院 教授 趙 伯明  
(同行)：国家外国専門家局 専門家 逯(lu) 一光博士

#### 2. 面談内容

##### 1) 北京交通大学概要

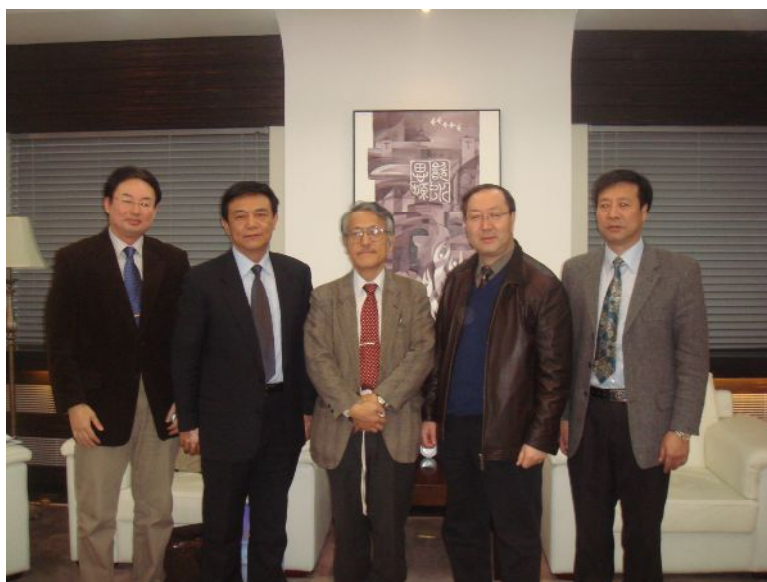
昔は鉄道省のもとにあった鉄道分野を専門とする大学で、現在は医学と農学以外の学部を備える総合大学。学生数2万人強(大学院含む)

東京工業大学、広島大学、大阪工業大学と提携している。

##### 2) 意見交換内容

交通大学側は、協力関係を構築するとした場合には、土木分野に限らず情報通信、環境等を含む広い分野で進めたいとの意向。両者にとって意義のある形で実施するには、分野・テーマや実施方法等さまざまな検討・協議、人選等が必要となるものと思われる。(的確なマッチングが不可欠。)

技術士会会員は、大学研究者と異なり企業内や公務員技術者として実社会での技術的課題について現場に即した実学としての経験を有する技術者が多い。そのような観点からの交通大学と技術士会が協力・連携したらどうかとの打診に前向きな感触を得



た。日本技術士会として組織的に協力関係を構築するためには、両者間での協定書(覚書)が前提となる旨を伝えた。

1月末に校長が、日中100大学による会合への参加のため来日する予定なので、できればその折に技術士会会長と面談することを検討したいとの意向があった。その時に協定書を締結したいとの意向の様様。

2010年7月に「道路・鉄道技術に関する国際会議」を交通大学で開催する予定であり、技術士会会員から参加者を募ってほしいとの依頼があった。



### 3. 今後の対応等

1月末の校長(学長)の訪日に向けて、両者で準備を進めることとする。

### 4. ホームページ

<http://www.njtu.edu.cn/>

佐藤修 記

## 7. 北京理工大学

1. 日時：2009年11月11日 午後2時から4時まで

2. 場所：北京市中央区南大街5号

3. 面談者：王通天教授（光電通信・色彩技術工程研究所所長、北京市人大代表）

4. 打合せ内容：この大学では、フリーフォームレンズの開発をしている。レンズ設計をもとにプラスチックで実際に成型してプロトタイプを試作している。企業とのかかわりは強くて、コンサルティングをしているという。彼らの最新のデータをプレゼンテーションしてくれた。当方も最近のレンズ設計と製作プロセスについて説明した。特に日本のベンチャー企業の有するガラスのモールド技術について関心を寄せた。中国でもモールドレンズの製造をしているが、歩留まりや金型などに課題があり日本の支援を依頼したいとのことであった。資料を置いていったが、さっそく現在相談の乗っている企業に紹介したいとのことであった。



プラスチックレンズの成型機、測定機などの実験室の見学をしたのち、今後とも連絡を取り合うことを約して辞した。

5. ホームページ： <http://www.bit.edu.cn/>

西澤絃一 記



## Ⅶ. 山東省済南市での訪問先とその概要

山東省済南市の訪問は、杉山篤、熊井敬明、熊沢壽人の3名が参加した。済南市までは、北京南駅から特急列車に乗り、約3時間10分で到着する。季節的には少し早く、雪が降り、外気温は零度近かった3日間であった。緯度的には東京と余り変わらない。

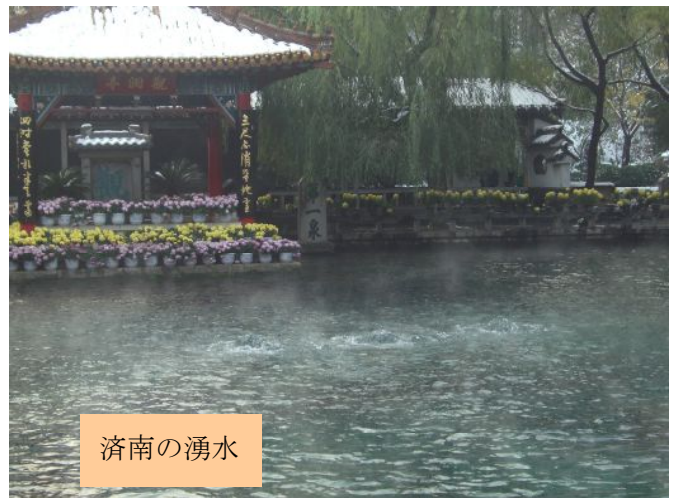
### 1. 済南市の概要

済南市は山東省の省都。古代四瀆の一つ「済水」の南にあったことからその名が付いた(その後黄河の河道が変わったため済水は現在黄河の一部となっている)。山東省の政治・経済・文化の中心で、鉄道の京滬線・胶済線が交差する交通の要衝でもある。山東省の中心より西より、北に黄河を臨み、省仲南部の低山丘陵地帯と西北の沖積平地との中間地点に位置している。市域内の地勢は大きく分けて、北部の黄河流域、中部の平地帯、南部の丘陵地帯の三つに分類できる。

市域の管轄は済南市街地の歴下・市中・天橋・歴城の4つの区と、周辺の長清区・章丘市・平陰県・済陽県・商河県に分れている。全域の面積は8177k m<sup>2</sup>で、人口は583万人。42の少数民族が居住しているが、漢民族が98.3%を占めており、少数民族の中では回族の1.6%が一番多い。済南市は中国の東側の海岸地域であり、黄河の流れている地域でもあります。中国の沿岸地方における経済的に最も発展している地域の一カ所として知られているところです。また、その一方で古代における中国文化の発展に対して多大な貢献をした地域としても知られています。

暖温帯大陸性モンスーン型気候に属している。年間平均気温は13.6度で、最も気温が低い1月の平均気温は-1.9度、最も気温が高くなる7月の平均気温は27度。年間降水量は614mm。

済南は古くから文明が栄えた地域で、4,000~4,500年前の中国を代表する文化圏「ロンシャン(龍山)文化」は済南市郊外の龍山鎮城子崖から初めて発掘されたことからその名が付けられている。



山東大学博物館展示品



商の時代この周辺は古譚国があり、春秋戦国時代には齊の版図に属した。秦の全国統一後には済北郡が置かれたが、漢代に済南郡に改められ、済南の名称が使われるようになる。その後の南北朝時代には多くの王朝が入れ替わったが、この時代、柳埠朗公寺(現・歴城区)を中心に仏教が大きく栄え、山東仏教の中心地となっていた。

## 2. 山東省外国専門家局

山東省人事庁山東省外国専門家局(11月13日14:40)

氏名	所属	役職
李伟晶 Li Wěijīng	山東省外国専門家局	副局长
修魯彬 Xiu Lubin	山東省外国専門家局	副調研員(通訳)
王南南 Wáng Nánán	山東省外国専門家局	

山東省外国専門家局との懇談は、時間の関係上、昼食を挟んで行われた。まず、李偉晶副局长から山東省訪問の歓迎の言葉として山東省には多くの日本企業が進出しており、成長も著しい。そのような中で技術士会、技術士の役割も多い。今後、打合せの中で交流を進めたいとの話であった。

また、杉山篤委員長から技術士会と技術士活動に関し資料を使い説明をした。あわせて、今回の山東省訪問の目的、内容の説明をした。約1時間半の懇談であった。最後に記念撮影をして完了とした。



杉山篤 記

## 3. 山東大学

**1. 大学概要** 山東大学は中国にある大学の中でも、最も古くに設立された名門大学の一つとして知られている大学です。山東大学は1901年に設立された学校であり、中国における2校目の国立大学として設立されました。最近、本校は中国政府により中国国内における国家重点大学に指定されました。そして、2001年には中国の教育省により21校の国内主要第一級大学のうちの一枚にも選ばれております。山東大学は山東省の省都である済南にある大学です。本大学は3,8k㎡もの敷地のもとで授業を行っています。



なお、11月13日午後に山東大学へ知的所有権の講義に来ていた熊本大学イノベーション推進機構の曾我一正教授に公園で偶然会い、技術士会の話をしたところ、今後一緒に知的所有権の講義などをしていったらどうかとの提案を頂いた。

## 2. 面談者

山東大学院部設置				
山东大学中心校区 济南市山大南路 27 号 邮编 250100				
经济学院	文学与新闻传播学院	经济研究院	历史文化学院	数学学院
化学与化工学院	信息科学与工程学院	生命科学学院	环境科学与工程学院	管理学院
马克思主义学院	国际教育学院	文史哲研究院	大学外语教学部	
山东大学洪家楼校区 济南市洪家楼 5 号 邮编 250100				
哲学与社会发展学院	政治学与公共管理学院	法学院	外国语学院	艺术学院
物理学院				
山东大学趵突泉校区 济南市文化西路 44 号 邮编 250012				
公共卫生学院	医学院	口腔医学院	护理学院	药学院
山东大学千佛山校区 济南市经十路 17923 号邮编 250061				
材料科学与工程学院	机械工程学院	控制科学与工程学院	能源与动力工程学院	电气工程学院
土建与水利学院	体育学院			
山东大学软件园校区 济南市舜华路中段 邮编 250101				
计算机科学与技术学院	软件学院 (齐鲁软件学院)	加拿大高等教育基础部		
山东大学兴隆山校区 济南市二环东路 12550 号邮编 250002				
材料科学与工程学院	机械工程学院	控制科学与工程学院	能源与动力工程学院	
电气工程学院	土建与水利学院			
附属医院 山东大学齐鲁医院 济南市文化西路 107 号 邮编 250012				
山东大学第二医院 济南市北园路 247 号 邮编 250033				
山东大学口腔医院 济南市文化西路 44 号 邮编 200012				

### 1. 山东大学 (11月11日 16:20PM 頃に訪問)

氏名	所属	役職
徐显明 Xú Xiǎnmíng	山东大学	全国人民代表大会常務委員 博士 校长
佟光武 Tong Guāngwǔ	山东大学	国际合作与交流处 教授 处长
栾维东 Luán Wéidōng	山东大学	科技处 副处长
刘明利 Liú Mínglì	山东大学	国际合作与交流处 重点項目及校际合作科科长

## 3. 懇談内容

### 徐显明学長の表明挨拶

- 日本の技術士の活動については、承知している。
- 今までの社会的貢献は人類の発展に貢献することであり、感動できる行動であると評価している。
- 人生に四つの目標がある。



①生存の自由

②コミュニケーションには友情を欠かせない。交流は未だ低い状況にある。

③ハイレベルは他人から尊重される。  
ハイレベルの要求が必要である。

④自分の人格と完璧さを完成させることは良い道筋である。

- 中国の恵まれた人を代表として敬意と感謝を述べたい。
- 技術士会と効果のある交流ができれば良いと思う。
- 大学は、国際化を第一に挙げている。
- 山東大学は総合大学であり、種々のことができる幅広い人がいる。
- 3つの領域がある。安全、環境、セキュリティの研究や人文部門もある。
- 防災は土木の大きなテーマの一つである。
- 海底トンネル、地下鉱物資源の開発に対する技術を持っている。
- 防災技術に関しては日本より遅れている。3つの領域は日本が進んでいる。
- 教員を派遣して貰い、技術協力の観点から講義をしてもらいたい。
- 共同研究も可能であり、社会貢献のプロジェクトに参加してもらうには非常に良いチャンスであると考える。
- 陳化北さんから、技術交流・協力の覚書交換の話題が出て、それに対して前向きに検討するとの発言があった。



氏名	所属	役職
方輝 Fāng Huī	山东大学博物馆	博物馆馆长 历史文化学院副院长

#### 4. 山東大学博物館

11月12日には、山東大学所蔵の博物館を方館長さんに案内していただいた。大学としては、山東省内での多くの発掘品の所蔵があり、大学110年の記念事業として博物館を作りたいとのことであっ



た。土器及び古物は、8000年前から近代のものまで展示されている。

5. ホームページ : <http://www.sdu.edu.cn/>

## 4. 山東師範大学

**1. 大学概要** : 山東師範大学は1950年10月29日に創立され、新中国建国後、山東省で最も早く創立された高等学府の一つであり、山東省の重点大学でもある。学校本部、長清新校舎の二つのキャンパスからなり、258ha 余りの敷地を占めている。現在、学校には、学生が29,100人余りいて、その中には、外国留学生が200人余りいる。同大学には中国教育部省級大学人文社会科学重点研究基地—齊魯文化研究センターと教育部基礎教育課程研究センター



がある。鄧小平氏が題された、中国科学技術部が主管する、『中国人口・資源及び環境』という中国持続的発展研究領域で唯一な国家級の学術定期刊行物など6種類、発行されている。同大学は国際交流や合作を積極的に展開し、現在、13カ国の大学及び台湾の51の学校と交流及び協力的な関係を確立している。山東師範大学は中国教育部に認可された真っ先に外国留学生と中国政府奨学金を受けた学生を受け入れる学校の一つである。1983年から長期、短期留



夕食後の記念撮影

学生を5,000余人受け入れてきて、山東省対外開放の窓口大学になっている。

### 2. 面談、懇談

#### 山東師範大学面談者

氏名	所属	役職
張敬東 Zhang Jindong	山東師範大学	国際交流与合作処 処長
李光貞 Li Guangzhen	山東師範大学	外国院学院日語系 教授 外国文学研究所 副所長

- 訪問したのは、夕方遅くなり、周辺は暗くなり、時間的に少ないので、懇談時間は短かった。

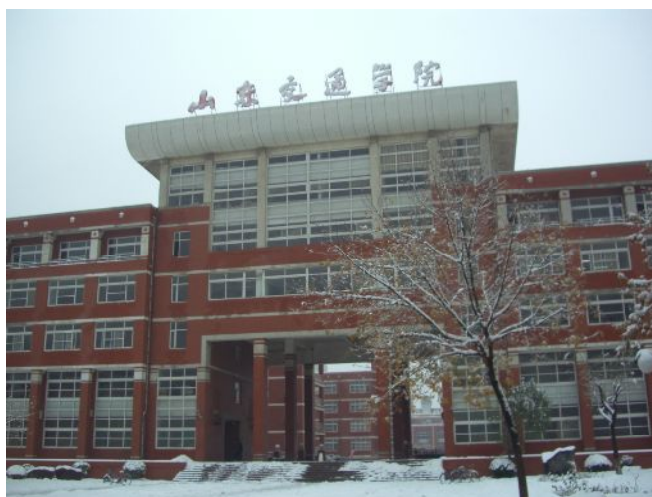
- 学生数は 35,000 人で、旧キャンパスに 15,000 人、新キャンパスに 20,000 人が就学している。
- 就職が大変である。就職率は 65% である。
- 先生になる人が少なくなった。
- 懇談後、大学で経営しているホテルで晩餐会に招待された。ホテルの経営者は、外部から採用したとのことである。

●  
3. ホームページ : <http://www.sdnu.edu.cn/xxgk.htm>

## 5. 山東交通学院

1. 学院の概要 : 山東交通学院は 1956 年に設立され、2000 年に交通運輸部から山東省直轄の大学である。

学校の占有面積の 2800 ムー、3 所在に分散（済南、威海）している。現在、学校の全日制の在校生は 16000 数人、在職する教員と職員の 1200 数人、教師の 858 人である。



学校は自動車学部、土木工学部、交通・物流工学部、機械学科、管理学科、情報工学部、経済学部、外国語学部、人文科学部、数学と物理学科ある。そのほかに北方の国際学院、海運学院、成人教育学院、職業技術学院などの 14 の学部と社会科学の教育部、体育教育部などある。学校にはそのほかに重点的な職業技術教育教師の訓練基地もある。

学校にはそのほかに重点的な職業技術教育教師の訓練基地もある。

・ 山東交通学院 (11 月 12 日 15:30)

氏名	所属	役職
程伟渊 Chéng Wěiyuān	山東交通学院	外语系专业及专业方向设置 外语系党总支副书记

### 2. 杉山篤委員長の講演

山東大学の劉処長の紹介でせっかく済南に来たので大学で何か講演するかとの提案で、杉山も賛同をして、講演の運びとなった。

最初に山東交通学院の外国語系の党総支部副書記長から、本日は日本技術士会の杉山先生が皆様に就職斡旋の講義をしてくれると言う紹介の基に、山東交通学院日本語学科の 1 年から 3 年生の学生に講義を行った。教室は、満員で約 70 名であった。



日本人のルーツ、中国の経済発展が遅れた要因、日本が経済発展をなし遂げた要因、日本人の礼儀作法、日本の調和的  
社会、中国人が学習しなければならないこと、中国の経済発展  
を担う若者である学生が気力・知力・体力を持って行動し  
なければならないことについて格調高い講演を行った。更に、  
語学は単なるツールであるから、語学だけを学んでも経済社  
会に貢献することは難しいので、経済産業社会の各分野にお  
ける専門的知識を吸収しなけ



れば、会社に入社しても役に立たない。語学だけではなく、「私は会社で自分がある分野で  
秀でている」という物を身につけることが大事である。

**3. コメント**：講演の後、質問会となった。学生からの積極的な質問はなかったが、学生から、日本に留学するにはどうしたら良いか、日本の企業に就職するにはどうしたら良いかという質問があった。また、日本語を学ぶだけで大変であり、他の知識を吸収する余裕がないとの弱気に聞こえる質問もあった。日本語教育とともに、将来の進路を見据えた職業的教育も必要と思慮する。

#### 4. ホームページ

<http://www.sdjtu.edu.cn/sdjtu2009/NewsInfo.asp?id=410>

## 6. 中国国家情報通信イノベーションパーク

**1. 施設の概要**：済南情報通信国際イノベーションパーク（「国家情報通信国際創新園」  
（China International ICT Innovation Cluster で、CIIC と略称する）は中国科学技術  
部、情報産業部、及び商務部が共同で通達を発し、山東省政府と共同で設立した国家イノベーション  
パークである。2007年6月に正式に発足した。

済南情報通信国際イノベーションパークは、「1園2区」、すなわち1園（CIIC）2区（研究開発区、  
産業区）と言う構想で建設が計画され、建設総面積は約61.5k㎡である。その内、研究開発区  
の建設用地が11.05k㎡、産業区  
の建設用地が50.47k㎡と



なっている。更に、物流配送、生活サービス、教育医療などのサービス施設を組み合わせ  
て建設する予定である。

同国際イノベーションパークは、世界レベルのソフトウェア、集積回路、ネット通信、  
デジタル機器、情報サービスと言う5つの産業群を建設する方針を打ち出している。また、  
全世界のイノベーションリソースを総合的に利用できる「指導区」、世界一流のIT産業「集  
中区」、及び中国自らのイノベーションを行う戦略的な「中心区」も建設する予定である。  
2020年までに、同イノベーションパーク内の年間売り上げは6000億元を目標とし  
ている。

同イノベーションパークの重要な構成要素として既に竣工した「国家情報通信技術研究  
院」は、総投資が1.5億元で、建築面積は3.7万㎡に達する。また、科学技術部が承認  
した「国家集積回路設計済南産業化基地」も同イノベーションパーク内に正式的に設立  
された。

#### 中国国家情報通信国際イノベーションパーク (CIIC)

氏名	所属	役職
杨光 Yang Guāng	国家信息通信国际创新园管理委员会	企业服务部 人才服务主管

中国国家情報通信国際イノベーションパークは、ビジネス関連インフラ、物流関連施設、  
生活関連施設などを提供するサポートエリアとして、2007年に総面積6.5平方kmの広大  
な敷地に開設された。既に620社以上の企業が入居し従業員は22,000人に達し、重点  
分野や複数の重大なコア技術の戦略的開発、国家目標の達成を飛躍的に実現するための特  
別なプロジェクトが実施されている。

新興企業、中小企業などが、共通的に使用できる電算室、システム、会議室など諸設備  
が完備され、技術者、企業を支援できる内容となっている。

現在の中国において、政府の係わるものは、すべて戦力的であり、その規模、人員など  
すべてが、日本のそれを凌駕したものとなっている。このような施設を見るたびに昨今、  
考えさせられることが多い。

## 7. 山東万博科技股份有限公司

### 山东万博科技股份有限公司

氏名	所属	役職
康良亭 Kāng Liángtíng	山东万博科技股份有限公司	资深技术专家
张中江 Zhāng Zhōngjiāng	山东万博科技股份有限公司	董事、副总经理
王倩 Wáng Qiàn	山东万博科技股份有限公司	综合部
孙华 Sūn Huá	山东万博科技股份有限公司	研友部经理

山東万博科技股份有限公司は、2003 月に設立し、従業員約 1500 人を擁し、情報通信技術 (ICT: [Information and Communication Technology](#)) の構築のもとに従業員は自ら技術研鑽に努め、新技術の開発に取り組み、社会的ニーズに沿った品質の高いサービスを提供しており、急速に成長をしている。

最初に会社の説明をした後、技術士会と技術士活動を説明した。

日本技術士会との提携の基に、日本語の IT 及び本語教育関連の専門技術者の派遣を要請したいとのことである。



## 8. 山東麗達外国語職業培訓学校

山東麗達外国語学校は、山東麗達国際經濟技術合作有限公司 (ソフトウェア会社) の関連機関で、主として日本に技能実習研修などで人材を派遣する前の日本語等の教育をしているところである。実際問題としてどのような日本語教育をしているか当方として興味があり、訪問対象とした。山東師範大学の近隣のビルの一室に学校があり、その一室で 6 名の生徒が日本語の教育を受けていた。年齢的には 10 代の後半から 20 代前期という年齢構成である。先生やカセットテープで質問を聞き、解答。会話、また復唱したりしている。かなり熱心な学習をされていた。耳から入れ、すぐ口に出す、大きな声での学習方法である。生徒は済南から離れているところ (田舎) の人が多いそうである。皆、純真そうである。



先生、生徒とともに

教育期間は、3 ヶ月であり、その中で日本の慣習、歴史、地理、文化など広範囲な教育をするそうである。朝の 8 時から 17 時までじっくりと泊りがけで学習しているそうである。これだけすれば、日常的な日本語を修得できるようである。自分の語学学習にふと気づき、反省をした。

あわせて、日本語教育のほか、日本への技能実習研修派遣システムについて、姜燕校長から話を聞いた。

山東麗達外国語職業培訓学校 (11 月 13 日 10:00)

氏名	所属	役職
姜燕 Jiāng Yān	山東麗達外国語職業培訓学校	总经理 校长

杉山篤 記



## Ⅶ. まとめ

広東省深圳市で開催された「中国国際人材交流大会」への参加展示を主目的に、あわせて北京、済南を訪問した訪中の成果と今後の課題を記すると、次の通りである。

**総論**：今回の旅行を包括的に考察すると、現在の中国では、光と影、いろいろの課題を背負いながら、すべてのシステム、施設、教育、人員、スピードなどにおいて日本と比較すると余りにも規模、速度での差が大きく、またその実施に当っては政府が戦略的に関与していることを垣間見える。かつての日本の高度成長期における様子と似ている。しかし、現在の日本はそれらがまったく見えない。停滞し、成長していない日本、ちまちました話に終始する日本、何時になっても結論が出ない日本、差は、ほとんどなくなっている、ある面では一方では毎年追い越されていることが顕著に見えて、残念なことが多い。中国側から見ると少しずつ、日本に対する関心・魅力も薄れてきているのかと思う。これを止むを得ないという一言で済むのか？自問自答する。

北京では某大手新聞社の編集委員とお会いでき、それらについて短い時間であったが、意見交換する機会が持てたことはよかった。また、各訪問先で外は雪、冷たさに比べ、すべての機関、人々は真摯、暖かく対応してくれた。感謝の意を表す。(以上、杉山の個人的意見)

### 各論

- (1) **中国国際人材交流大会**：技術士会としては、本格的に大会に出席し、会及び技術士の活動を中国全体に PR することができた。来年度参加する場合は、準備態勢を早めに行い、万全の体制で対応したい。できうるならば、ブースの設置箇所についてももう少し場所のよいところを希望したい。
- (2) **技術セミナー**：北京での技術セミナーの開催は初めての試み(08年は天津市で実施)であり、若干準備不足を否定できないが、聴講者からはそれなりの反響があったと思慮する。次回は、複数箇所で開催のキーワードを定め、PR 活動を入念に実施したい。あわせて現場調査と複合化し、ビジネス化に対応する必要があると考える。
- (3) **大学訪問**：華北電力大学、清華大学、北京交通大学、北京理工大学、山東大学、山東師範大学、済南交通学院を訪問した。それぞれは初めての大学訪問が多くあり、技術士会及び技術士活動を PR できた。次回においては、できうるならば、教授陣、学生などとの懇談で技術士会として交流できる具体的なテーマを見出してみたい。その打ついくつかの大学とは交流の覚書交換できればと思う。
- (4) **基金会との協議**：中国国際人材交流基金会との打合せにおいては、基金会が各地の大学、企業を同席させ、合同で会議を実施した。それなりの技術士会・技術士への要望事項は、把握することができた。開催に当り基金会の努力とご苦労がわかった。両者の窓口、具体的な交流方法の結論が少しあいまいな事項もあった。当面、具体的な技術交流の対応は、各機関で個別対応することとしたい。
- (5) **旅行行程**：冬季の訪問先で、それらは南北に位置して、その寒暖の差が大きく、合わせて行程がきついため、参加者の疲労が大きかったものと思慮する。準備から帰国、報告

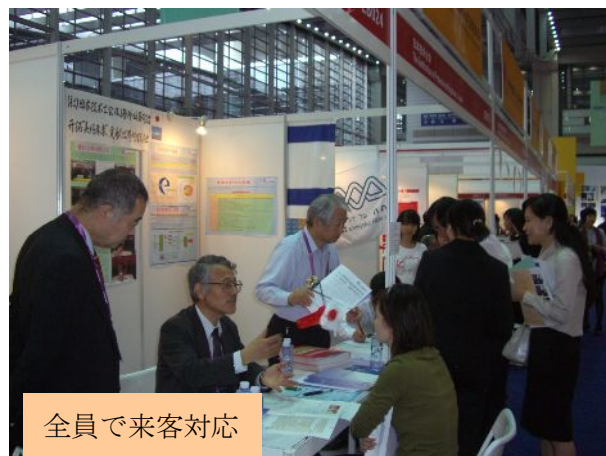
書作成まで、参加者 5 名がお互いに気を使いながら自主的に対応して、所期の目的を達したものと思慮する。今後計画に当たっては、少しゆとりのある行程計画としたい。

杉山篤 記

## VIII. 編集後記

今年の 7 月に高橋修会長が訪中し、中国中央政府国家外国専門家局との協議書を交換することができた。この第一の効果かもしれないが、9 月に入り、中国国際人材交流協会の陳化北総代表からメールが入り、11 月の 7、8 日に深圳で開催される「中国国際人材交流大会」への出席案内が送付された。

この大会には、5 年前に前委員長時代に瀋陽市で開催された時点において参加した経験があったが、当方としてその準備は初めての経験であった。早速参加者を募ったところ佐藤修副委員長、西澤紘一委員、熊沢壽人副主査相当と北海道支部の当方の友人熊井敬明氏が参加することとなった。最初に会議を持ちどのような形で参加するか？展示物はどうするか？配布資料はどのようなものにするか？それらの作業



分担などどのようにするか？なかなか決まらず紆余曲折したが、なんとか各参加者の熱意ある協力により資料が作成された。出来上がったのは出発前の 1 週間前であるので、船便で現地に資料を送付することができず、各参加者が分担をして持参することとなった。その持参資料は段ボール箱 2 箱となり、かなりの肉体的な負担となった。

また、西澤紘一委員からせっかく北京経由で行くならば、北京で技術セミナーを開催したいとの提案で、これもあわせて実施することとなった。

深圳での大会は、「生むがやすし」で、生まれれば各参加者が自主的な行動・分担をしながら説明などをしてくれた。ただ困ったのは、来客者が多いにもかかわらず、通訳が 1 人となったため、十分に説明・案内がなされないこともある。たまたま、ブースに立寄った女性(物流会社勤務で日本語を学習中)、展示会場入口で入場者のチェックをしていた女子大学生(日本語学科 3 年生)に声をかけ、技術士会ブースに来てもらい、説得をして通訳をしてもらった。さすが中国の女性は、しっかりしている。彼女たちは、一度われわれが説明をしているものを通訳した後は、来客があれば自主的に、資料の配布と展示ポスターを説明してくれた。これにより我々は、大いに助かった。まさに「袖触れ合う仲も他生の縁」で「実践、実行が第一」である。千客万来であるわがブースに比べ、前のブースのフランス科技協会は、女性一人で手持ち無沙汰、また右隣のイスラエルにもほとんど来客者が少なく状態であった。

当方としては、旧知である国家外国専門家局趙司長、袁鷹天津市專家局長、長安大学の李西建教授、甘肅省專家局の方にも会え、それなりの収穫があった。

中国で技術士会が主体となる技術セミナーの開催は、08年に天津市で開催に続いての試みであった。その計画を立てた西澤紘一委員の苦勞、受け皿となった超え対中環境ビジ

ネスコンサルタントの陸宇暉社長の熱意によるものが大きく、今後このセミナーの成果が少しでも中国及び技術士会・技術士に発露されることを期待したい。

帰国日の午前中には、中国国際交流基金会、各大学での基地関係者との打合せを行った。この会議で技術士会、技術士に対する期待があることが十分認識された。この期待に応える真摯な対応、成果ある具体的な対応をしていく必要性がじっくりと当方の肩に架かる。これからがまた未知への道を作り、前に進まなければならない。

いずれにしても参加者5名は、余裕のないハードスケジュールにも拘わらず所期の目的を達成して無事帰国することが出来た。それにしても北京、済南は寒かったが、中国対応された方々の心は、真摯で温かかったことが印象に残り、その分参加者として何らかの形で還元をしていく必要があると思慮する。報告書は、各参加者が訪問先別に分担をして記載したものである。

最後になりましたが、訪問先の各地、各機関の関係者にはそれぞれの場面でお世話になったこと、中国各機関と精力的に連絡調整を願った在日中国国際人材交流協会陳化北前総代表に感謝の意を表すとともにも今後とも技術士会・技術士のご支援を願います。また、私たちを温かく迎えてくれた中国の関係機関・各位並びに出張に当り各場面で支援を願った技術士会事務局に厚く感謝する。

2009年11月27日

海外活動支援実行委員長 杉山篤

## 付録

**1. 持参資料**：作成資料は、まず日本の技術士制度を紹介し、その上で日本技術士会の業務・組織を説明し、さらに技術士の海外業務遂行実績、中国との技術交流の現状を示す。併せて、技術士業務の依頼をどのような手続きをしたらよいか、具体的に提示、説明をする資料とした。そのほか、技術士会の出版物を展示した。

- (1) 日本技術士会と技術士の紹介ポスター (A-1で15枚、中国語で作成)
- (2) 技術士会、技術士紹介資料(中国語)
- (3) 技術士会事業概要(日本語)
- (4) 技術士会の主要な業務(中国語)
- (5) 技術士会の説明(中国語)
- (6) 中国との技術交流・協力の考え方(中国語)
- (7) 具体的な技術士の業務例(中国語)
- (8) 参加者の提供技術事項(中国語)
- (9) 技術士依頼方法、様式など(中国語)
- (10) 参加者メンバーの業務内容(中国語)
- (11) 技術士会の出版物
- (12) 技術士試験問題集(第一次試験、第二次試験)
- (13) 中国との協議書、覚書集



## 2. 中国でのホームページ

首页 | 友好院校 | 项目合作 | 短期专家 | 长期专家 | 国际会议 | 出国出境 | 海外校友 | 海外学习 | 海外发展 | 下载中心 | 留言板 | 山大首页



文章列表

[打印页面](#)

### 徐显明会见日本技术士会来访客人

录入时间: 20091115

11月12日下午3:30, 徐显明校长在邵逸夫科学馆贵宾室会见了来访的日本技术士会海外援助执行委员长杉山笃等一行三人和国家外专局陈华北副司长。徐显明对客人的来访表示欢迎, 希望日本技术士会和山东大学在国家外专局的大力支持下开展技术合作与交流, 共同发展。杉山笃委员长向徐校长介绍了日本技术士会的基本情况以及和中国的交流概况, 表示非常愿意和山东大学进行合作。

日本技术士会是依据日本技术士法, 于1951年设立的公益法人机构, 目前拥有一万二千多名活跃在日本产业界的技术士, 他们都是在科学技术方面既有专业知识又有高度应用能力及丰富实践经验的工程技术人员。

技术士制度是日本战后引进美国工程师制度建立起来的技术人员资格国家考试制度, 目的是为了确保公众的安全及公益性, 培养具有高度技术素养的技术工作者, 技术士几乎覆盖了科学技术的全部领域, 包括机械、船舶与海洋、航空航天、电气电子、化学、纤维、金属、资源工程、建筑、上下水管道、卫生工程、农业、森林、水产、经营工程、信息工程、应用编程、生物工程、环境、原子能及放射线、综合技术监督等21个技术门类。

其主要业务为: 推进技术士职业继续教育(CPD, Continuing Professional Development), 进行技术士的考试、登记、发证和会员认定; 扩大技术士的工作空间; 进行技术士相关的宣传、普及和教育活动; 开展国际合作和海外交流; 促进会员之间合作和信息交换等, 在国际合作方面, 接收日本政府委托, 承担日本作为APEC工程师计划以及EMF国际工程师流通论坛成员国的相关工作。

友情链接:

—友好院校—

—校内部门—

—教育部门—

· 国外(港澳台)友好大学

[首页](#)[新闻](#)[基金会简介](#)[金融项目](#)[基金会动态](#)[在线捐款](#)[捐款机构介绍](#)[软件集成电路项目](#)[项目成果](#)[软件培训基地](#)[优秀专家推荐](#)[工作指南](#)[培训学员库](#)[政策法规](#)

### 文档下载

- 危险品运输应急处置预案及Steve Hawks先生简历
- 危险品运输应急处置预案回执
- 加拿大临时居民签证申请表
- 美国DS157签证表
- 供参考的美国签证表DS156样表
- 申报国家签证申请表
- 网站使用说明
- 组织派遣团组和人员赴境外培训机构资格认定申请表
- 标准中文电码
- 2005年中国软件产业高级管理人员培训班(中文)
- 2005年中国软件产业高级管理人员培训班(英文)
- 出国(境)人员审查表

### 友情链接

- D 高级软件管理与创新培训班
- D 美国签证表DS156在线填写
- D 国家外国专家局
- D [国家软件与集成电路人才国际培训基地](#)
- D 中国国际人才交流协会
- D 中国国际人才网
- D 爱尔兰都柏林城市大学
- D 网上专家项目洽谈
- D 美国仁斯利尔理工大学拉黑管理学院
- D 中国国际人才交流杂志

2009年11月22日

### 2009北京·国家软件人才国际培训基地与(社)日本技术士会项目对接会

2009/11/16

#### 2009北京·国家软件人才国际培训基地与(社)日本技术士会项目对接会

11月14日,由中国国际人才交流基金会主办的“国家软件人才国际培训基地与(社)日本技术士会项目对接会”在北京国家会计学院举行。中国国际人才交流基金会主任王海洋、刚刚卸任的中国国际人才交流协会、中国国际人才交流基金会驻日总代表陈化北、日本技术士会海外活动支援实行委员会委员长杉山笃、日本技术士会信息得育委员会副主任兼藤泽寿人以及来自北京、大连、西安、济南、南昌、沈阳六家国家软件人才国际培训基地的代表等参加了此次会议。会上各基地代表与日本技术士会杉山笃一行在基金会与日本技术士会签署的合作备忘录的框架下,就“师资引进”、“技术引进”、“企业合作”等方面进行了交流互动与需求对接。中日双方希望能够充分利用日本技术士会的智力资源,积极推进基地建设,王海洋主任表示基金会将积极推动和支持培训基地开展对日合作项目,并对基地对日合作项目的开展寄予厚望。



国家软件人才国际培训基地与(社)日本技术士会项目对接会



中国国际人才交流基金会主任王海洋在会上讲话

[关闭窗口]

欢迎您提供宝贵信息

姓名	<input type="text"/>	单位	<input type="text"/>
电话	<input type="text"/>	email	<input type="text"/>
标题	Re: 2009北京·国家软件人才国际培训基地与(社)日本技术士会项目对接会		





## 我市参加2009年中国国际人才交流大会结硕果

2009-11-16 08:39:42

来源: 东方圣城网

作者:

本报济宁讯(通讯员卢玉波 李娜)11月7日至8日,2009年中国国际人才交流大会在深圳会展中心隆重举行。大会以“融全球智力,促共同发展”为主题,以国际人才交流及项目合作为目的,以项目推介和交流洽谈为主要形式,为各类企事业单位技术改造、产品创新和提升管理水平提供智力支持。本次大会共设9大展区,来自40多个国家和地区的1000多个国外专家组织参会。该大会在海内外具有重要影响力,已成为国际人才交流的重要舞台,成为中国引进海外人才智力的重要渠道。

我市组织的代表团携15个经济技术专家需求项目与会,项目涵盖工业、农业、社会服务业等领域,涉及种植、畜牧、机械、化工、电子、生物、医疗、教育等多个行业。会上,我市代表人员积极同参会的15个国家的外国专家组织代表进行洽谈和交流,并向德国高级专家组织(SES)、英国国际高级专家组织(IEC)、荷兰退休专家组织(PUM)、法国国际技术交流咨询组织(EC-TI)、日本技术士协会、香港师资教育学会6个专家组织投递了项目。目前我市所有项目均已和相应的专家组织达成初步的合作协议。

10年来,我市共执行引智项目412项,其中国家、省重点项目29项,引进外国专家2586人次,这些项目的执行为我市科学发展跨越发展提供了坚实的人才支撑和技术保障。

### 精彩专题

- 2009济宁两会
- 2009市宜部门承诺大会
- 2008中国国际孔子文化节专题
- 治理车辆超限超载 大力优化发展环境
- 东方圣城网-2008奥运火炬传递-2008奥运火炬
- 东方圣城网——改革开放30年专题
- 2008山东(国际)文化产业博览会
- 东方圣城网科普专题
- 2008高考专题
- 学习苏北精神 促济宁跨越
- 创建文明城市,共建美好家园
- 视频直播:“情系灾区”大型募捐晚会

### 数字报纸

济宁日报



都市晨报



### 热点图片







您现在所在的位置：[首页](#) >> [信息公告](#) >> [信息浏览](#)

### 站内搜索

请输入要搜索信息的内容!

搜索信息:

### 投票调查

#### 投票调查

- 投票标题 (124) 投票标题
- 15%
- 6%
- 5%

票数 0

## 外语系举行“日语专业学生职业规划”专题报告会

www.sdjtu.edu.cn 2009-11-18



为帮助日语专业学生更好地规划大学生活及更好地实现就业，11月12日下午，我校外语系特邀日本技术士会海外活动支援执委会委员长杉山笃，工程师胸井敬明、熊泽寿来校，为大学生们做了一场精彩的“日语专业学生职业规划”专题报告会。全体外语系日语专业学生聆听了报告。

主讲人杉山笃委员长以自身十分丰富的经验及以人生观的研究为出发点，给大家带来了一场形象生动的“以技术之眼所看到的日本社会、企业的动向以及和中国技术合作的提案”为题目的演讲，指出了同学们未来就业时应该注意的事项，并对大家今后如何进一步做好职业生涯规划提出了积极的意见建议。委员长声情并茂、丰富的表情动作及幽默的语言赢得了同学们阵阵掌声。

报告会后，主讲人杉山笃委员长与同学们进行了积极的互动交流，就如何将专业学习和未来就业很好地相结合做了进一步探讨。

此次报告会全过程是用日语进行的，不仅使同学们充分认识到了自身日语水平的不足，深刻意识到日常生活中加强日语口语和听力练习的重要性，进一步调动了同学们努力学好日语的积极性，而且使同学们对今后的学习和职业规划有了更为清晰的了解和认识。（外语系）

发布：xctzb 时间：[2009-11-18] 访问人次：388

[【返回】](#) [【顶部】](#) [【关闭】](#)

## 陈峰副校长会见日本技术士会客人

发布时间: 2009-11-12 收藏 我要评论



2009年11月11日上午10:00, 陈峰副校长在思源楼613会议室亲切会见了日本技术士会海外活动支援实行委员会副会长佐藤修先生, 陪同佐藤先生到访的还有国家外专局教科文卫专家司理一光博士, 双方就日后开展进一步合作的相关事宜进行了商谈, 国际合作交流处处长徐宇工教授, 土建学院赵伯明教授等参加了会见。

陈峰副校长首先代表学校欢迎佐藤修先生的到来, 并简要介绍了我校与日本多所大学及日本信号公司的合作情况, 陈峰副校长希望通过此次佐藤先生的到访, 建立新的渠道, 促成我校与技术士会在多学科、更广泛领域的合作交流。

佐藤修先生对母校的热情接待表示感谢, 会谈中, 佐藤先生着重介绍了日本技术士会的情况, 以及表达了希望发挥技术士协会在技术转化应用方面的优势, 同我校建立合作关系的愿望。

会谈结束后, 佐藤修先生在路一鸣博士以及土建学院师生的陪同下, 参观了我校土木工程实验室。

### 背景介绍:

社团法人日本技术士会是依据日本技术士法, 于1951年设立的公益法人机构, 目前拥有一万二千多名活跃在日本产业界的技术士, 他们都是在科学技术方面既有专业知识又有高度应用能力及丰富实践经验的工程技术人员。

技术士制度是日本战后引进美国工程师制度建立起来的技术人员资格国家考试制度, 目的是为了保障公众的安全及公益性, 培养具有高度技术素养的技术工作者, 技术士几乎覆盖了科学技术的全部领域, 包括机械、船舶与海洋、航空航天、电气电子、化学、纤维、金属、资源工程、建筑、上下水管道、卫生工程、农业、森林、水产、经营工程、信息工程、应用工学、生物工程、环境、原子能及放射线、综合技术监等21个技术门类。

责任编辑: 杜冠群

佐藤修先生对母校的热情接待表示感谢, 会谈中, 佐藤先生着重介绍了日本技术士会的情况, 以及表达了希望发挥技术士协会在技术转化应用方面的优势, 同我校建立合作关系的愿望。

会谈结束后, 佐藤修先生在路一鸣博士以及土建学院师生的陪同下, 参观了我校土木工程实验室。

### 背景介绍:

社团法人日本技术士会是依据日本技术士法, 于1951年设立的公益法人机构, 目前拥有一万二千多名活跃在日本产业界的技术士, 他们都是在科学技术方面既有专业知识又有高度应用能力及丰富实践经验的工程技术人员。

技术士制度是日本战后引进美国工程师制度建立起来的技术人员资格国家考试制度, 目的是为了保障公众的安全及公益性, 培养具有高度技术素养的技术工作者, 技术士几乎覆盖了科学技术的全部领域, 包括机械、船舶与海洋、航空航天、电气电子、化学、纤维、金属、资源工程、建筑、上下水管道、卫生工程、农业、森林、水产、经营工程、信息工程、应用工学、生物工程、环境、原子能及放射线、综合技术监等21个技术门类。

其主要业务为: 推进技术士职业继续教育(CPD, Continuing Professional Development), 进行技术士的考试、登记、发证和会员认定; 扩大技术士的工作空间; 进行技术士相关的宣传、普及和教育活动; 开展国际合作和海外交流; 促进会员之间合作和信息交换等。在国际合作方面, 接收日本政府委托, 承担日本作为APEC工程师计划以及EMF国际工程师流通论坛成员国的相关工作。

上一篇: [赴台文化交流] 龚爱副书记慰问、高艳率校  
校“2009乐动两岸文化交流团”圆满完成任务返  
校

林依子中关片版八子万原 超讯子乙小群学IT 办IT  
机电学院面向2006级本 爱心传递 汇聚力量 我核  
电子信息工程学院07级第 李幼平院士为我核研究生  
信息中心光友卸参观海滨 我核召开2009年本科核  
我核召开核领导班子专题 猎虎感的十个常识问题你

### 休闲小游戏/电影



魔術師冒險之一



海盜船大戰



射人游戲



奇遊迷你版



百華滑水賽



遙控賽車



打省英雄傳



紅蓮袍(Th



小賊、美女和



血路(Blo